

世界を感じて地元を見つめ直す！

能登の魅力を全国に発信するために結成された“のとガール”。そのメンバーは、ニカラグア、セネガル、ジンバブエの青年海外協力隊OGです。3人の出会いは、金沢大学と県や市、町が地域ぐるみで開催する「里山里海マイスター育成プログラム」。日本で初めて「世界農業遺産」に認定された能登の自然や文化、産業、歴史を知り、地域づくりに貢献する人材を育てる事業です。能登出身のメンバーに加え、東京から移住したメンバーもいます。

メンバーの一人が協力隊員として活動していたニカラグアの農村部では、仕事がなく、働き盛りの若者が地元を離れてしまうという問題がありました。帰国してみると日本も同じ。能登でも過疎化が進んでいたのです。そこで、能登を元気にしたいと企画したのが、農業体験などができる「能登ライフ体験ツアー」。観光では分からない、地元の魅力が発見できると好評です。のとガールの強みは実行力。まず自分が動かなければならないのは、まさに協力隊時代と同じ。途上国での経験を生かし、これからも能登をアピールしていきます。



能登を視察するアフリカからの研修員と交流するなど、国際協力にも取り組む

のとガール
水口 亜紀さん、松井 久美さん
中谷 なほさん

ameblo.jp/noto-activity/



地域の魅力を見直すきっかけに！

合同会社大地のりんご代表
道山 マミさん
daichinorin5.namaste.jp/



地域の人々が力を合わせ、土をつくり、食物を育てる。祖母が言っていた“豊かな暮らし”を目指し、大学では農学部で食品加工を学びました。キャンパスは北海道の網走。広大な土地を機械で耕しているのを見て、農業ってカッコいい！と。その後、長年の夢だった青年海外協力隊に応募し、ネパールの農村でオレンジやレモン、マンゴーなどを使ったジャムやジュースなどの農作物加工を指導しました。

そして2007年、大学の恩師の誘いで再び北海道に移住。農作物を加工・流通・販売し、地域活性化を目指す会社を設立しました。網走の畑にはあちこちに貴重な“資源”がたくさんあるのに、地元の人たちは当たり前すぎて気付いていない。“知恵をひねればなんとかなる”という協力隊精神で一念発起し、2011年に独立。農家の皆さんの知恵を借りながら、規格外で市場に出せない山わさびを使って「ガツンと辛い山わさび粕漬」を商品化。これが漬物の日本一を決めるT-1グランプリで全国1位になり、地域の魅力を再発見するきっかけに。今後も北海道の魅力を発掘し、地域を盛り上げていきます。



北海道の農と食を考えるイベントに地域の人と一緒に出店

特集 市民参加
あなたの一步が世界を変える

あなたの地域の“オモシロ人”発見！

国際協力といっても、関わり方は人それぞれ。日本での経験や技術を携えて羽ばたく人もいれば、帰国後に現地での経験を日本で生かす人もいる。そんな“オモシロイ”彼らの挑戦を紹介！

どんな技術でも必ず生かせる！

株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所
アソシエイトリサーチャー／See-D代表

遠藤 謙さん

sec-d.jp/



大学でロボットの研究をしながら、ふと思いました。最新の科学技術が実際の生活に役立つのはまだまだ先のこと、自分は何のために研究しているのか。そんな時、友人が義足を必要とするようになり、もっと直接人の役に立つ方法はないかと、最新鋭のロボット義足を学びにアメリカに留学しました。その研究室の仲間から、インドでは地元のNGOが機能性の低い義足を安く配っていると聞きました。私たちエンジニアの技術を使えば、同じ予算でより良いものを作れるのに。でもインドの人々自身が開発に関わり、現地の生産技術に見合った義足を生み出さなければ意味がない。そこでインド医師と試作品を開発し、現在も一緒に改良を進めています。

それと同じことが、私が代表を務めるSee-D Contestでも言えます。日本の大学生や社会人のエンジニア、デザイナーが、途上国の生活改善につながるアイデアを出し合うイベントですが、大切なのは現地のニーズをきちんと調べること。これまでの入賞チームは、ココナツからお酒を作るキットや流通の効率化を図るソフトウェアなどを開発。現地のパートナーとビジネス展開を目指しています。



インドのパートナーと少しずつ義足をモデルチェンジ

フェアトレードで社会貢献！

貿易を通じて世界のためにできることがある。通関士として働いていたころ、たまたま手に取った雑誌で知った“フェアトレード”。まずはコンセプトを学ぼうとアメリカのフェアトレード認証団体でインターンをし、コスタリカ、ニカラグア、ホンジュラス、グアテマラのコーヒー産地を訪問しました。そこで出会った生産者たちは、電気も水道もない生活。収入源はコーヒーだけ、豆の価格は下がる一方という苦しい状況でした。

豆の質はいい。彼らと日本の消費者をつないで何かできないか。帰国後はフェアトレードコーヒーの輸入販売会社を設立し、コーヒーブランド「フェアビーンズコーヒー」を立ち上げました。通関士時代に得た貿易の知識はありましたが、販売や流通、会社運営の経験はゼロ。今考えると無謀な挑戦でしたが、周りに助けられ、何とか軌道に乗っています。自社ブランドのコーヒー、ココアやチョコレートなどのフェアトレード商品を通じて、開発途上国の人々の生計向上に貢献できる選択肢を、日本の皆さんに提供していきたいと思っています。



名古屋の国際協力イベントにフェアトレードのブースを出展

有限会社フェアトレーディング取締役
林口 宏さん

www.fairbeans.org

